

キーワードは「主体的」！ 研究だより



# 互見授業

グループE  
発行者 川崎はるか

## 小林先生の「こんな授業がしたい」



テストの点数はとれなくても、社会は好きだと生徒が思う授業

世の中と授業内容が結びついている授業

→世の中と授業内容を「比べる」「関連づける」ことで、  
「だから世の中はこうなっていたんだ」と生徒が実感できる授業

日時:7月27日(月) 3限 2-3 社会

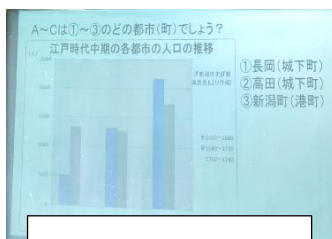
単元:近世の日本 「産業の発達と幕府政治の動き」

〈互見授業の視点〉

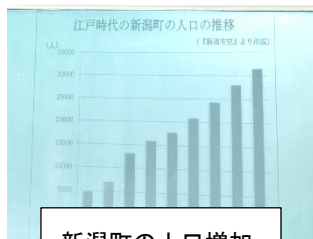
- ・なぜそうなるのか、比較して考えることのできる資料の掲示
- ・クイズ形式で資料を掲示することで、「なぜ」を深める。

☆提示する資料の精選

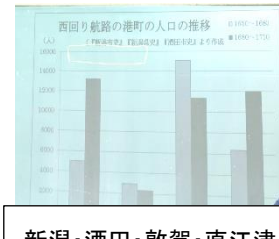
学習課題「新潟町の人口はなぜ増えたのだろうか」を追究するための資料掲示の工夫



新潟・長岡・高田の人口



新潟町の人口増加



新潟・酒田・敦賀・直江津

## 【授業の流れ】

- ①新聞スクラップ発表
- ②ウォーミングアップ:前時の授業内容を穴埋め形式で振り返る
- ③クイズ形式で資料を掲示

- ・新潟町・長岡・高田の人口の変化
- ・西回り航路の都市(新潟・酒田・直江津・敦賀)の人口の変化

学習課題 新潟町の人口はなぜ増えたのだろうか？

- ④教科書・地図帳で予想する…個人・グループ・グループ以外との意見交流・再度のグループ
- ⑤予想発表



## GOOD!

### 〈資料掲示・授業構成〉

- ・授業の初めに穴埋めでウォーミングアップしていて、前時の確認ができていてよい。
- ・教材掲示が生徒の関心をひきつけるクイズ形式なのがよかった。
- ・大関さんが最後に正解を出したグラフが「なぜだろう」と考えるきっかけをつくっている。
- ・「同じ西回り航路の都市なのに、なぜ都市によって人口の増減があるか」という、「同じ」はずなのに「ずれ」がある資料を用いた、生徒が自然と「なぜ」を考えてしまう資料が素晴らしい。

### 〈生徒・先生の様子〉

- ・生徒との対話とスクリーンを多用して、生徒がつねに顔を前に向けて教師と資料とも対話的な学びをしている。
- ・提示された資料から、いろいろな意見を出させ、全員で考えようとしている。
- ・挙手をさせての発言。→自信がなく手が挙げられない生徒も、答えを聞いてうなずき、確認できていた。
- ・活発な意見交換が行われ、みんなで一緒に考える様子が見える。
- ・グループでの意見交換だけでなく、グループ以外との意見交換をし、そこで仕入れた意見を再度グループで話合う時間があった。



## もっと

- ・新潟町の人口増加について、理由が全く分からず、教科書や地図帳を見ても意見が出てこないグループがあった。手立てはなかったか？  
→(GOOD!)「地図帳から予想してみる」という具体的ヒントから考えを再開できた。  
→地図帳を見ても考えられないグループもあった。
- ・湊町の比較により、都市人口の推移の理由を引き出していたが、本時前半はやや停滞していたように感じた。疑問をもたせる時間かもしれませんね。
- ・人口の増加と湊(貿易)の発展との関連性を見いださせる視点は大切だと思った。地形との関連でしようか、本日答えが出ず、もやもやで終わったのも作戦でしょうか。
- ・資料に各都市の米の生産量や取扱量などを追加するとよかったかもしれません。地図帳から平野→米の作付け面積が広い→農民が増える、航路をつかっての米の取り扱いが増える→人口が増える。

小林先生お疲れ様でした。ありがとうございました。